

# 「教育への支援必要」

室蘭・海星学院高校の  
松井さんと市川教諭

## カンボジアの現状報告

室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、232人)の1年生、松井玲菜さんと市川栄作教諭が10月28日、同校でカンボジアスタディツアーの報告会を行った。カンボジアの教育の現状や課題などを全校生徒徒に伝え、「世界寺子屋運動」への理解と協力を呼び掛けている。

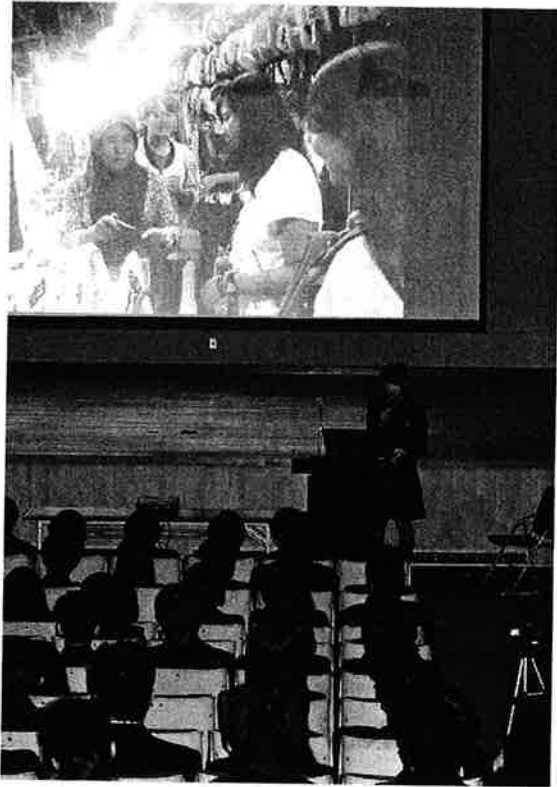
(成田真梨子)

同ツアーは日本ユネスコ協会連盟の主催。松井さんら全国の高校生10人が8月12〜21日、市川教諭ら全国

の教員5人が同12〜16日に現地に派遣された。2人は

別行動で、首都プノンペンや世界遺産のアンコールワットがあるシェムリアップ、寺子屋(教育施設)などを訪問。歴史や文化を学び、子どもたちや教育関係者と交流した。

松井さんは「30年におよぶ内戦で教育基盤は崩壊した。都市と農村に格差ができて、児童労働や貧困の問題につながっている」と強調。遺跡の見学中に「お姉さん、1ドルと言って、子どもが物売りに来たエピソードなどを語った。貧困などが原因で中途退学する子もおり、寺子屋には復学支援クラスがあることを紹介し



松井さんと市川教諭がカンボジアの教育の現状と課題を伝えた報告会

た。

市川教諭は「教育を受けられない」「読み書きや計算ができない」「安定した職業に就けない」「収入が少ない」と貧困のサイクルができていると指摘。寺子屋には大人が通う夜間クラスがあるほか、ヤシの木で木製品を作る技術訓練も行われていることを伝えた。

2人は「教育を受け、自立し、職業の選択ができるようになるまでの支援が大切」と訴え、書き損じはがきを集めて「世界寺子屋運動」に募金協力する活動への協力を求めた。